



主体性を育む読書

2学年主任 大島 裕子

師走に入り、慌ただしい日々が続きます。音羽中学校では、定期考査Ⅲが終わり、教育相談、保護者会が行われる予定で、2学期を振り返りながら、進級や卒業に向けて気持ち新たに目標を再確認する季節となりました。慌ただしい中でも、おさまるところに物事がおさまっていくこの季節が私は大好きです。

この季節、私が楽しみにしているイベントは、毎年12月1日から始まる本屋大賞1次投票です。この後、2月1日に本屋大賞ノミネート作品が決定し、新学期を迎え新しいクラスが発表される頃に本屋大賞本が決定するので、年末年始から新年度まで楽しみがずっと続きます。

さて、皆さんはこの1か月で、何冊本を読みましたか？9月に文化庁が発表した2023年度の国語に関する世論調査によると、1か月で1冊も本を読まなかった人の割合は6割超だったそうです。理由は、「仕事や勉強が忙しくて読む時間がない」が38.9%、それ以上に多かったのが「スマホやゲーム機など情報機器で時間が取られる」で、全体の43.6%を占めています。

音羽中学校では、読書活動推進の一環として、朝読書を行っています。国語科でも、夏の読書感想文コンクール、2学期のビブリオバトル、定期テストでの1冊読みからのあらすじテストなど、様々な読書推進活動を行っています。特にビブリオバトルにおいて、自分の「推し本」についてドラマチックに語る音羽中生を見ていると、活字離れをそれほど感じません。

読書と学力の相関関係は全国学力調査でも指摘されています。また、1冊読みで得られる達成感や、いつまでにどれくらいのペースで読むかという計画性の育成は、学習指導要領の観点の一つである「主体的に学習に取り組む態度」の2つの側面（粘り強く取り組もうとする側面・自己の学習を調整しようとする側面）とも親和性が高いと感じます。

この夏、研修の機会に恵まれ、高松市で行われた全国学校図書館研究大会に参加してまいりました。記念講演には脳科学者の茂木健一郎先生、分科会には元NHKアナウンス室長の山根基世さん、児童文学作家のくすのきしげのりさんなどが登壇し、ご講演を拝聴し、研鑽を深めました。特に心に残ったのは、茂木健一郎先生のご講演で、「本を読める人はこれからの時代かなり有利」「本によって人生は変わる」「人工知能ほど本を読んでいる奴らはいない」などなど、ノー原稿でしゃべり倒しの90分でした。

折しもオーストラリアでは、16歳未満のSNS禁止の法案が議会で可決されました。また、ICT先進国のフィンランドでも学習の成果が不透明ということでタブレットの使用制限が話題になっています。変化の激しい時代にあっても、読書の素晴らしさは不変です。読書活動を通じて、主体性がさらに育まれることを願って取り組んでまいります。

◆ ◇ ◆ 12月の行事予定 ◇ ◆ ◇

2日（月）時間割3始・全校朝会 安全指導・1年歯科講話⑤⑥	16日（月）専門委員会・中央委員会
3日（火）3年教育相談始	18日（水）職員会議
4日（水）1・2年教育相談始（希望者）	23日（月）生徒朝会・研修会
11日（水）3年教育相談終 1・2年保護者会（学級懇談会）	24日（火）大掃除
12日（木）2年脊柱側わん症検診	25日（水）終業式・研修会
15日（日）3年英語スピーキングテスト予備日	26日（木）冬季休業日始
	27日（金）学校閉庁日
	※12月は「いのちと人権を考える月間」です。